

楽しい秋の活動



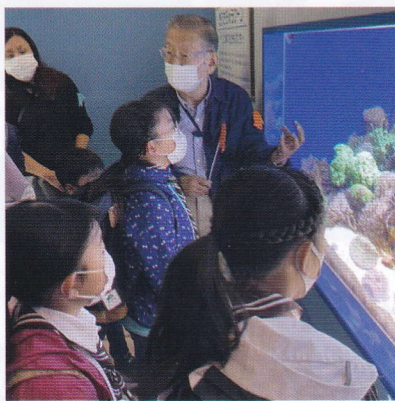
ゴミの分別、資源回収。SDGsで続けよう。つなげよう。(第93団 三島市)



たくさん実った数珠玉でクラフト。カマキリの卵もみつけ。(第87団 浜松市)



ワールドシンキングデイ第3章「力を合わせる」を体験。(静岡協議会 静岡市)



駿河湾には何があるかな？SDGsについても考えたよ。(清水連絡協議会 静岡市)



運営役と避難者役になって「避難所運営体験」(御殿場・裾野地区リーダー会)



飢餓に苦しむ子どもたちのために「おにぎりアクション」(第22団 浜松市)



日本のガールスカウト運動 100 周年を記念し、「国際ガールズメッセ」の一環でカナダのガールガイドと交流。ジェンダー差別について話し合いました。(7月25日 静岡県連盟ユースメッセンジャー)



ジュニア研修会「Free Being Me行動編」には、64デバイスからジュニア 82 名、リーダー 47 名が参加。これまで地区・地域・団で実施していた「リモート」発信を、初めて県連盟から行いました。(11月14日 静岡県連盟)



韓国連盟第18回国際eキャンプにジュニアスカウトが参加。課題に取り組み、修了証とオレンジ色の記念チーフをもらいました。(8月1日～20日 第31団 静岡市)

課題で
自分で考えた
キャンプのワッペン
デザインです



シニアの企画運営でオンラインのキャンプファイヤー。スタンツもソング也大盛り上がり。(9月18日 第104団 伊豆の国市)

どんどん
進化中！

発信・活動しています
ZOOMで

バックスロッジ(イギリス)のInstagramに静岡県のスカウトが登場しました！



「バックスロッジのインスタに静岡のスカウトが出てるよ」との情報が入り、早速確認したところ、バックスロッジが2022年の予約受付を開始するお知らせに、2019年にイギリスを訪れた静岡県のスカウトの写真が使われていました。そこで、バックスロッジに経緯を聞いてみました。

Liz Tranterさん(Senior Programme Coordinator)：ご連絡をいただき、ありがとうございます。この写真は、日本のガールスカウトの写真正として保管されています。バックスロッジについて貴誌に掲載していただければ嬉しいです。日本の皆さんが再びバックスロッジに来ることを心から願っています。ご予約やご相談は、プログラムチームに気軽にお問い合わせください。2022年のボランティアも募集しています。18歳以上で興味のある方はぜひ応募してください。

〈連絡先〉
プログラム
programmes@paxlodge.waggs.org
ボランティア
volunteers@paxlodge.waggs.org



Liz さんが送ってくれた資料



ガールスカウトをアピールしよう

◆メディアにアプローチ！ テレビや新聞で取り上げられた団を紹介



カメラ、マイク、ディレクターなど大勢のNHKクルーが来てびっくり。とても緊張しました。(江村あゆみ 第31団 静岡市)

どうしたらメディアに取材してもらえるの？という声を聞きます。そこでメディアにアプローチした経験のある団員に聞いてみました。

♡いつも利用している清水市民活動センターに七夕の飾り付けをする時に、私たちの活動をより多くの人に知ってもらいたいと思い、新聞社とテレビ局に手紙を書いて投函しました。静岡新聞は女性の記者が取材に来てくれました。NHK テレビは大勢で取材に来られ、午前の取材がその日の朝と夜のニュースで流れました。「テレビで見たよ」「いいことをやっているね」などたくさんの人にてもらい、学校であまり話したことのないクラスメートからも声をかけられてテレビの影響はすごいなと思いました。(櫻田愛香 第31団 静岡市)

♡交流館の掲示を見た地元の馴染みの新聞記者から連絡があり、団の活動を新聞で紹介していただきました。活動を露出するのは大切ですね。掲載時はお礼状を出すようにしています。(北條延枝 第108団 静岡市)

◆チラシを作ろう！ 配ろう！ 独自のチラシをで情報発信している団を紹介



近隣の団に触発されて、「うちの団も作ろう！」と、保護者がPCで作った初めてのチラシ。(第98団 静岡市)

園児から小学生の女の子が、興味をもって遊びに来てくれたら嬉しいな、という気持ちで作成しました。(第41団 浜松市)

団のHPにアクセスしやすい構成にしています。ネット上では背景色を月ごとに変化させて掲載しています。(第9団 三島市)

特別企画

“永遠の17才”に
レンジャースカウトが取材！

仕事に役立ったガールスカウトの経験は？

今年7月から静岡新聞夕刊「窓辺」欄を執筆した「かにぱんお姉さん」こと望月沙枝子さんは、かつてガールスカウト会員でした。新聞連載のコラムでは、第5回「母のしつけとガールスカウトの学び」(7月29日)と第13回「かにぱんお姉さん」(9月23日)で『ガールスカウト』について触れています。今回は、企業の顔として頑張る「永遠の17才 かにぱんお姉さん」に「ホントの17才 レンジャースカウト」が取材しました。



Q1 「かにぱんお姉さん」について教えてください。

A1 「かにぱんの国の妖精さん」です。かにぱんの国から、かにぱんの形をした雲で旅に出たところ、お昼寝中にうっかり浜松市中区中央1丁目に落ち、三立製菓の前で倒れているところを三立製菓社員に助けられました。そして、生計を立てるためにかにぱんや三立製菓のお菓子を広報をするお仕事をしています。

Q2 「かにぱんお姉さん」になろうと思ったきっかけは？

A2 個性を発揮するきっかけにと思ったからです。個性は心の奥底にある純度の高い「主張」であり、無限の「可能性」を秘めています。子供たちに「こんな大人もいるんだ！」とみてもらえれば、周りの目を気にせず勇気をもって、個性を発揮してくれるきっかけになるかなと思い始めました。そして、大人の背中を少しでも押せる存在になれるかもしれないという想いもありました。

Q3 ガールスカウト時代はどんなスカウトでしたか？

A3 キャンプは毎年！老人ホーム慰問、地域活動も積極的に参加していました。東京のガールスカウト会館へも訪れたこともあり、レポート提出など思い出はたくさんあります。鈍行の夜行列車で出かけた戸隠キャンプは、重い荷物を担いで何連泊したこと。実はパトロールになじめず、辛いこともありましたが、今となればあの経験でこの精神力の強さが備わったといっても過言でないかもしれません。(笑)

Q4 「永遠の17才」とご自身を紹介されていますが、リアル17才当時のことを教えてください。

A4 大学受験のために勉強していた思い出はありません。(；)青春を取り戻したくて、今、永遠の17才として憧れだったピンクのお姫様のようなお洋服で活動しているのかもしれない。(笑)

Q5 お仕事で大切にしていることは？

A5 自分の意見をしっかりと持つことです。常に否定ではなく肯定的に物事に取り組むことを心掛けています。会社という集団でも個性を発揮することで、自分にしかできない仕事を常に模索しています。

Q6 ガールスカウトの経験が仕事で役に立ったと思うことはありますか？

A6 周りの意見に流されることなく、常に自分の信念をしっかりと持ち、正しいこと、間違っていること、困っている人を率先して助けることなど、スカウト時代に培ってきたものが根付いていると思います。

Q7 最後に静岡県のガールスカウトの皆さんにメッセージをお願いします。

A7 どんなときも前向きに明るくハッピーに！楽しいことばかりでなく、辛いことがあっても、考え次第で乗り越えることができます。女の子は笑っている姿が一番美しいと思っています。辛いときこそ笑って、自らを明るいほうへ導いてくれたらいいと思います。



第46団(浜松市)に小2から高3まで在籍した望月さん。

今回の取材担当

今回の取材はとても貴重な体験になりました。自分の考えに自信を持って行動することが大切だと思いました。(榎本藍 第26団 浜松市)

「私の17才は…」

丸火キャンプ場にて



多くの行事に参加し、私の宝物はお金で買えない貴重なものばかり。17才の時、ワールドチーフガイド(1966来日)との握手は忘れられません。(山口協子 第75団 富士市)

アメリカへ出発時に 見送りの母と



日連派遣で1ヵ月間、アメリカ全土を周り、ホームステイも体験。今の私を支えてくれる素敵な思い出で、交流はずっと続いています。(伊藤雅枝 第25団 静岡市)

カナダ SOAR キャンプで



小学生の頃から点字カレンダーを作り、毎年施設に届け交流会を行ってきました。この経験を基にレンジャーバッチ「生活」も取得できました。(石野愛佳 第24団 浜松市)※写真右端

〈取材協力〉三立製菓株式会社 浜松市中区中央1-16-11 ☎053-453-3111(代)
パイ、クッキー、パン、カンパン、チョコレート加工品ほかの製造販売
「かにぱん」をはじめ、「源氏パイ」「チョコバット」など家族で楽しめるお菓子や、「カンパン」は防災用としてお馴染みの商品です。



スカウトの真剣な顔、心底楽しんでいる様子を写真に残したいなあ…と思っても余裕がなかったり、いざ撮影しても残念な写真ばかり…なんてことはありませんか。今回は、写真のプロにスマホ撮影のコツを聞きました。

①まず大事ななのは構図

1枚撮ったら画像を確認。撮りたいものがちゃんと入っているか、余計なもの（野外なら無機質な看板、車、非常口の看板など）が写りこんでいないか。もちろん人物の表情も大事（目つぶり、横向きなど）。チェックしたら、

次は思い切って2、3歩前へ出て撮影すると迫力のある1枚が撮れます。作業をしている場面なら、色んな角度から撮ってみるといいです。自分の目線より低くしてみたり、正面でなく横から撮ってみたりする工夫を。

②実は意外と大事な光

屋外の人物なら、逆光は避けたほうがベター。良い景色を背景に撮る時も、どちらから陽が射しているか意識するのもコツです。室内で大きな窓がある時も人物の顔が

暗くならないように撮る方向を要確認。蛍光灯下だと青っぽくなったり、白熱灯の下だと赤っぽくなったり。（スマホでも色の調整は後でもできますが）

③歓声が聞こえてきそうな写真を撮ろう

人物写真は、何といても楽しそうな笑顔が撮れば最高です！どこかで楽しそうな声が聞こえたらすぐ駆け寄ってみるといいですね。撮影者もその話に加わり、会

話してコミュニケーションを取りながらシャッターを押すと、もっと良い「笑顔」の写真が撮れますよ。

その一枚はスカウトの成長の証 活動記録を残そう



まずはアングル！

活動の内容がわかりやすいように背景やレイアウトをちょっと気をつけてみよう。



豊かな表情を引き出す！

「上手にできたね」「今日は頑張ったね」気分がほぐれるひとことでスカウトの表情はぐっと明るくなります。



集合写真はチームワーク！

思い出に残る写真は、スカウトの服装を整え、美しい姿勢作りから。全体がきれいに見える立ち位置も、撮影者以外の大人が声を掛けましょう。

? 撮影担当一人に任せていませんか？!

笑顔を引き出すには大人がみんなで声をかけて。時にはポーズのリクエストをしてもいいですね。



〈取材協力〉日光堂 静岡市清水区興津中 425 ☎054-369-0468

行事の記念写真、文字やイラスト、日付入れも可能。2L版 120円から。GS割あり。気軽に相談を！

編集後記

今回は秋の事業、広がるオンライン活動をご紹介。コロナ禍になってから活動写真が減っています。活動時には楽しい写真撮影を心がけてみませんか。投稿お待ちしております。コロナ第5波を乗り越え、少しずつ以前の生活を取り戻しつつあるなか、新たなオミクロン株の脅威が広がっています。ちょっと気が緩んだコロナ対策も、もう一度基本に立ち返り、安心安全な活動を。

ガールスカウトしずおか第124号 発行部数 2,500部

発行：一般社団法人ガールスカウト静岡県連盟 編集：情報委員会

静岡市葵区田町1-70-1 ☎054-252-4840 FAX054-273-7167

■HP <http://www.girlscout-shizuoka.jp>

■Facebook <https://www.facebook.com/GS.Shizuoka>

■Email info@girlscout-shizuoka.jp

会員募集中

ガールスカウト
静岡県連盟

最新情報は
こちらから▶▶▶

